RAPID W *Weekly Report on Aomori Prefectural Infectious Disease*

週報

青森県感染症発生情報 （2006年第25週）

発行 青森県感染症情報センター（2006年6月30日）
（青森県環境保健センター内：担当 微生物部）
TEL 017-736-5411、 FAX 017-736-5419
青森県環境保健センターホームページ
http://www.pref.aomori.lg.jp/eiken/index.html

Ⅰ 第25週の発生動向（2006/6/19～2006/6/25）

1. **水痘**については、むつ保健所管内で、新たに**警報**が出されました。
2. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**については、むつ保健所管内（第24週から）において**警報**が出されています。
3. **流行性耳下腺炎**については、上十三保健所管内（第24週から）において**警報**が出されています。
4. **伝染性紅斑**については、五所川原、上十三保健所管内において**警報**が継続しています。
5. **インフルエンザ**については、県全体では再び増加し、八戸保健所管内では患者報告数が多い状態が続いていることから引き続き注意が必要です。迅速診断キットにより、弘前保健所管内では、A型：2件、B型：4件、むつ保健所管内ではA型：10件、B型：47件が報告されています。

Ⅱ 第25週五類感染症定点把握

保健所名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数
疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	（前週からの増減）
(72) インフルエンザ	9	0.64	6	0.40	117	8.36	8	1.14	69	7.67	57	9.50	266	4.09	92
(60) 咽頭結膜熱	5	0.56			4	0.44			4	0.67	4	1.00	17	0.40	7
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	0.89	10	1.11	5	0.56			9	1.50	11	2.75	43	1.02	-21
(62) 感染性胃腸炎	9	1.00	12	1.33	1	0.11	2	0.40	1	0.17	26	6.50	51	1.21	-56
(63) 水痘	5	0.56	20	2.22	30	3.33	8	1.60	14	2.33	36	9.00	113	2.69	17
(64) 手足口病			1	0.11	3	0.33	2	0.40			1	0.25	7	0.17	3
(65) 伝染性紅斑	15	1.67	4	0.44	1	0.11	7	1.40	7	1.17	3	0.75	37	0.88	-7
(66) 突発性発しん	2	0.22	5	0.56	3	0.33	1	0.20	5	0.83	5	1.25	21	0.50	0
(67) 百日咳															0
(68) 風しん															0
(69) ヘルパンギーナ	15	1.67	50	5.56	1	0.11			4	0.67	9	2.25	79	1.88	41
(70) 麻しん（成人を除く）															0
(71) 流行性耳下腺炎	8	0.89	19	2.11	6	0.67	9	1.80	54	9.00	9	2.25	105	2.50	20
(73) 急性出血性結膜炎					1	0.50							1	0.09	1
(74) 流行性角結膜炎	2	1.00			4	2.00	4	4.00	3	1.50			13	1.18	5
(59) RSウイルス感染症	1	0.11	1	0.11							1	0.25	3	0.27	2
(82) マイコプラズマ肺炎					10	10.00					9	9.00	19	3.17	12

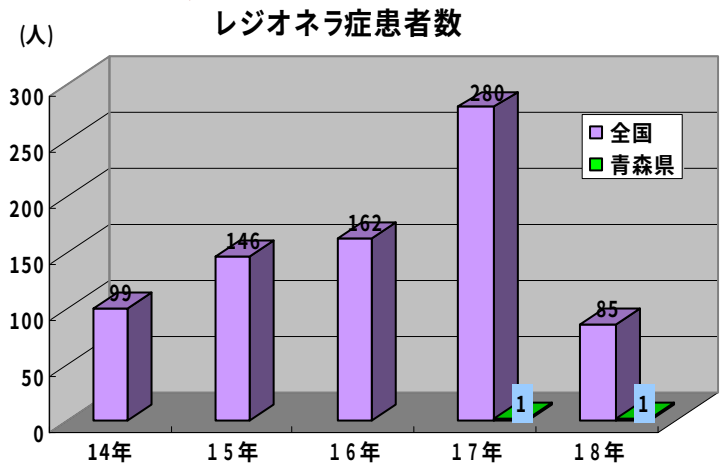
定点数	インフルエンザ（内科＋小児科）	小児科	内科	眼科	基幹
青森	14	9	5	2	1
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

■は警報　■は注意報　「空欄」：患者発生数0

Ⅲ 表Ⅱ以外の感染症法対象疾患 （18年計には、今回届出された人数を含む）

（29）つつが虫病(四類全数把握疾患)　青森保健所管内：2人
　　五所川原保健所管内：1人　（18年計 10人）
（43）レジオネラ症(四類全数把握疾患)　青森保健所管内：1人　（18年計 1人）
（51）後天性免疫不全症候群(五類全数把握疾患)　弘前保健所管内：1人　（18年計 2人）

感染症の窓　レジオネラ症



※ 18年は、6月25日までの数値です。

☞本県におけるレジオネラ症の報告数は、17年に1名、今年（6月25日現在）1名と、少数ですが、全国では、毎年100例以上の報告があります。

レジオネラ症には、一過性のポンティアック熱と劇症型のレジオネラ肺炎とがありますが、このうち、レジオネラ肺炎は、適切な治療を施さないと致死率が60～70%となる危険な病気です。

患者は、50代以上の男性に多い傾向がありますが、年齢に関わらず免疫機能が低下した人は肺炎を起こす危険性が高いので注意が必要です。

レジオネラ症の原因であるレジオネラ属菌は、自然環境中に普通に存在するため、循環水を利用した風呂、噴水、冷却塔等に侵入して増殖することがあります。

また、レジオネラ症には、予防のワクチンが無いので、予防には、循環水を利用した施設の適切な清掃、消毒または換水などの留意が必要です。なお、ヒトからヒトへの感染はありません。